

第3回 国分寺都市計画道路3・2・8号線沿道まちづくり協議会

日 時 平成19年12月17日(月) 午後7時00分~
場 所 ひかりプラザ

議 事 次 第

- | | |
|-----------------------|---------|
| 1. 開会 | 司会 |
| 2. 副市長挨拶 | 副市長 |
| 3. 議 題 | 進行 ; 座長 |
| (1) ブロック検討会(第4・5回)の報告 | 事務局 |
| (2) これまでの議論を振り返って | |
| 資料説明 | 事務局 |
| まちづくり憲章 | 事務局 |
| まちづくり憲章について意見交換 | |
| (3) まちの将来像 | 事務局 |
| まちの将来像について意見交換 | |
| (4) 総括 | 座長 |
| (5) その他 | |
| 今後のスケジュール | 事務局 |
| ヒートアイランド調査について | 饗庭先生 |
| 4. 閉 会 | 司会 |

第2回 国分寺都市計画道路3・2・8号線沿道まちづくり協議会 議事録

【日 時】 平成19年7月17日(水) 午後7時00分～午後9時10分

【場 所】 国分寺Lホール

【出席者】 協議会委員名簿参照(出席者23名)
副市長、市事務局5名、協力機関4名
傍聴者18名

(50音順・敬称略)

氏 名	所 属 等	区分	グループ	備考
あ い ぼ しん 饗 庭 伸	首都大学東京 研究員	6号	A	
あ り が たかし 有 賀 隆	早稲田大学理工学術院 教授	6号	A	
あ り よし しゅうぞう 有 吉 重 蔵	国分寺市市民生活部長	7号	B	
い な が みち 稲 垣 道 子	(株)フェリックス 代表取締役	6号	B	
お く ち しんいち 小 口 進 一	国分寺市清掃施設整備等担当部長	7号	A	
か ん ざき たかよし 神 崎 高 義	戸倉自治会	2号	A	
き よ はら かずと 清 原 一 人	武蔵台自治会	2号	A	
く り はら しんいち 栗 原 進 一	内藤自治会	2号	A	
こ う やま まさゆき 神 山 正 行	内藤自治会	2号	-	欠席
こ う やま ひでお 神 山 秀 雄	国分寺市商工会	4号	A	
さ か もと ゆきあ 坂 本 幸 雄	公募市民(並木町在住)	1号	A	
す ず き よしひろ 鈴 木 吉 弘	国分寺市都市建設部長	7号	B	
た か だ ち えみ 高 田 千 恵 美	国分寺市立小中学校PTA連合会	3号	A	
た く ら へいぞう 田 倉 平 蔵	戸倉自治会	2号	A	
て ら う ち よしのり 寺 内 義 典	国土館大学工学部 助教授	6号	B	
な い とう たかあ 内 藤 孝 雄	内藤自治会	2号	-	欠席
な い とう とよかず 内 藤 豊 一	内藤自治会	2号	B	
な か むら みつとし 中 村 光 利	内藤自治会	2号	B	
な か むら やすゆき 中 村 安 幸	東京むさし農業協同組合	5号	B	
ひ ぐ ち みちあ 樋 口 満 雄	国分寺市政策部長	7号	A	
ひ ぐ ち やすあき 樋 口 靖 明	公募市民(東元町在住)	1号	B	
ふ じ き たえこ 藤 木 妙 子	公募市民(戸倉在住)	1号	B	
ふ な み ず ひろこ 船 水 弘 子	国分寺市立小中学校PTA連合会	3号	B	
ほ り ぐ ち いさく 堀 口 伊 作	共益東部自治会	2号	B	
や ま ね まさる 山 根 衛	戸倉自治会	2号	B	

1号委員：公募により選出された市民 2号委員：国3・2・8号線沿道地区関係自治会の推薦者

3号委員：国分寺市立小中学校PTA連合会の推薦者 4号委員：国分寺市商工会の推薦者

5号委員：東京むさし農業協同組合の推薦者 6号委員：識見を有する者 7号委員：国分寺市の職員

【事務局】

	所 属	氏 名	電 話
(幹事)	政策部 政策経営課長	内 藤 達 也	042 -325 -0111 内線371
	市民生活部 経済課長	加 藤 美 智 子	内線392
	都市建設部 道路管理課長	栗 原 修	内線503
	緑と水と公園課長	荒 井 務	内線352
	建設課長	阿 部 崇	内線505
	環境部 環境計画課長	富 澤 守	内線438
	下水道課長	伊 藤 勘 一	内線442
	教育部 学務課長	福 島 繁 雄	内線457
(事務局)	都市建設部 都市計画担当部長	松 本 昭	内線510
	都市計画課 都市計画担当課長	増 田 聡	内線513
	都市計画担当係長	池 田 昇	内線512
	都市計画担当	小 川 登	"
	"	三 田 俊 子	"
	"	橋 口 順 子	内線387
	(協力)株式会社建設技術研究所		

(都市計画課)

Fax
E-mail

042 -328 -1823
toshikeikaku@city.kokubunji.tokyo.jp

【議 題】

- 1 . 開 会
- 2 . 副市長挨拶
- 3 . 委員紹介
- 4 . 副座長選出
- 5 . 議 題
 - (1) アンケート調査結果の報告
 - (2) ブロック検討会(第1回～3回)の報告
 - (3) まちづくり計画検討の進め方について
 - (4) その他
- 6 . 閉 会

【議事概要】

1. 副座長選出

東京むさし農業協同組合推薦 中村安幸委員
株式会社フェリックス代表取締役 稲垣道子委員

2. アンケート調査結果の報告

3. ブロック検討会の報告

寺内委員：大きな道路と住宅地の関係を考えるときに、饅頭の“アンコ”を住宅地、“皮”の部分を大きい道にたとえて話をします。“皮”と“アンコ”をうまく作ってあげることが大事です。第1回ブロック検討会では“アンコ”の中の話に関するご意見、ご議論が多く、“皮”の話だけでなかったことが非常によかったと思います。

4. 意見交換会（グループ別の主な意見）

A グループ

バリアフリー等も考慮し、東西の横断を出来るだけ自由にしてほしい。
道路が斜めに交差するので、残地の活用について課題として捉えておく必要がある。
100年後を見据え、利便性を考えた安全かつ便利な道路を作らなければならない。
超低騒音舗装等、最新の技術を道路整備に活かしてほしい。
遺跡や文化財の活用についても考えていくべきだと思う。
沿道の商業的な土地活用が出来るようにしないと道路をつくる意味がない。
車が休憩できるような施設も考えていきたい。

B グループ

家の前の道は、戸倉地域の人が西国分寺へ行くための主要な動線であるため、国3・2・8号線にもほぼ直角に交わるから、是非残すべき。
平面を見ているだけでは立体的なイメージがわからない。紙でも良いから具体的(立体的)なものを示してもらいたい。
模型などがあれば議論しやすいと思う。
模型については立体的なイメージと斜めの道路が接続する箇所のイメージが湧くものであれば良いと思う。
模型を作っても、実際のイメージと異なる場合もある。完成後に“こんなイメージではなかった”という話になっても困るのではないか。
生活道路については、現状をもっと調べた方がよいのではないか。それぞれの生活道路の車の流れ、交通量などを把握した上で、接続について考えるべき。
道路の拡幅については、分断される1本1本の生活道路の国3・2・8号線との接続方法と合わせて考えていく必要があると思う。

国3・2・8号線沿道まちづくり協議会開催報告

(1) 第4回ブロック検討会

実施概要

日 時：平成19年9月5日(水) 19:00～21:00
 場 所：福祉センター3階 大会議室
 出席者：委員18人、傍聴者7人

目的

国3・2・8号線の整備イメージを確認しながら、これまでの検討会で出された意見をもとに沿道まちづくりの課題をまとめること(市街地課題図を作成すること)を目的とする。

内容

以下の流れに沿って2つのグループに分かれてワークショップ形式にて意見交換を行った。

1. 開会
2. 本日の進め方
3. 道路整備イメージについて

全員でまず、共有認識を持ちます

4. グループ別の意見交換

これまでの課題の確認

新たなまちづくり課題についての意見交換

ブロックに分かれて、お互いの考えていることを話し合います

5. グループ発表・全体意見交換

6. 次回の予定など

7. 閉会

全員で、話し合いの結果を振り返ります



検討会で出された意見

人や自転車が国3・2・8号線を横断できる箇所が数百メートル毎に欲しい。

街並みが見通せるように低木が主体の植栽がよいのではないかと。

恋ヶ窪駅と国3・2・8号線の間を通りは、賑わいも含めたまちづくりを考えてはどうか。

いつまでも暮し続けていきたいと思えるまちにしたい。

(2) 第5回ブロック検討会

実施概要

日時：平成19年10月16日(火) 19:00～21:00
場所：市役所本庁舎 第1第2委員会室
出席者：委員19人、新規参加者3名、傍聴者4人
備考：今回は拡大ワークショップとし、新たに参加者を募ることとした。

目的

これまで話し合ってきたまちづくりの課題(市街地課題図)を確認し、その上で、沿道のまちと道路をつなぐ、環境施設帯のイメージについて、参加者で共有することを目的とする。

内容

以下の流れに沿って3つのグループに分かれてワークショップ形式にて意見交換を行った。

パート1：ブロック検討会の基本となる考え方と本日の進め方をみんなで確認します。

今回から拡大ワークショップになるということで、もう一度、ブロック検討会の目的や進め方、ブロック検討会の意見の反映について事務局より説明します。

これまでの意見をまとめた「市街地課題図」を見ながら、今後、沿道まちづくりを進めていく上での課題についてみんなで共有します。

今日何をするのか、またどんな成果を出すのかについても理解します。

パート2：ブロックごとに分かれて、意見交換を行い、まちと環境施設帯について、イメージをふくらませます。

事例視察を行った地区の「まちと環境施設帯」の写真にて、おさらいした上で、「こんなイメージがいい」「こんなイメージはいや」などの印象を自己紹介を兼ねて話し合います。

次に、事務局が用意した「まちと環境施設帯イメージ模型」を用いて、そのイメージについて膨らませます。

最後に、話し合いで膨らましたイメージについて「言葉にするどんなイメージか」「どこの場所をイメージしたものか」「そこでどんな利用ができるのか」などをみんなで話し合います。

パート3：ブロックごとに話し合った内容をみんなで分かち合います。

各ブロックで作成した環境施設帯イメージを報告しあい、成果を分かち合います。また、お互いの成果についての意見交換も行います。

本日の成果を「振り返りシート」に記入し、次回の検討会につなげます。



検討会で出された意見

単なる通過道路ではなく、国分寺市民に寄与するような道路にしたい。

災害時に国3・2・8号線を活かせるような道路のアクセスを確保できるようにすべき。
農地は土地利用が変わっていく可能性があり、それを踏まえた環境施設帯のあり方を考えるべき。

自動車がスピードを出せないように、ジグザグになっている方がよい。

市街地の部分については、副道を設置した方がよい。

植樹帯が多すぎても困る。東八道路の量では多い。

国3・2・8号線沿道まちづくり憲章（案）

国3・2・8号線沿道まちづくりは、地域住民の代表であるまちづくり協議会を主体に、社会生活の秩序とルールを尊重し、地域住民と行政との十分な話し合いのもとに進めます。

まちづくり協議会は、沿道のまちの将来像を定めるとともに、将来像の実現のために何をすべきかを話し合います。

緑豊かな住環境を守り育てるとともに、地域の一部に交流機能を発展させて、これまで以上に快適で住みよいまちづくりに努めます。

快適で住みよい生活環境を子供たちに残すため、環境・生活・景観・防災に配慮し、持続可能なまちづくりを進めます。

国 3・2・8 号線沿道まちづくりの将来像（案）

将来像を考えるための5つの視点

- 緑に恵まれたうるおいある生活環境と、にぎわいのある場所がバランスよく配置されたまち
- 小学校区や自治会など地域コミュニティに配慮したまち

くらし・にぎわい 『いきいきとしたまち』

- 公園や社寺林などの緑の拠点を街路樹や沿道の緑でつなぐ、緑のネットワーク
- 緑の軸となる環境施設帯は、沿道特性をふまえて整備
- 沿道地域の緑を育むとともに、緑を創出する工夫を考える

環境 『緑と共生するまち』

- 日常生活を送る上で必要な生活動線を確保
- 地区内の生活道路に通過交通を呼び込まないような交通安全に配慮したまちづくり

交通安全 『安全快適なまち』

- 武蔵野らしい良好な景観資源の保全
- 環境施設帯と一体となった、緑豊かで質の高い市街地景観の形成
- 緑豊かで良好な沿道景観を創出できるしくみづくり

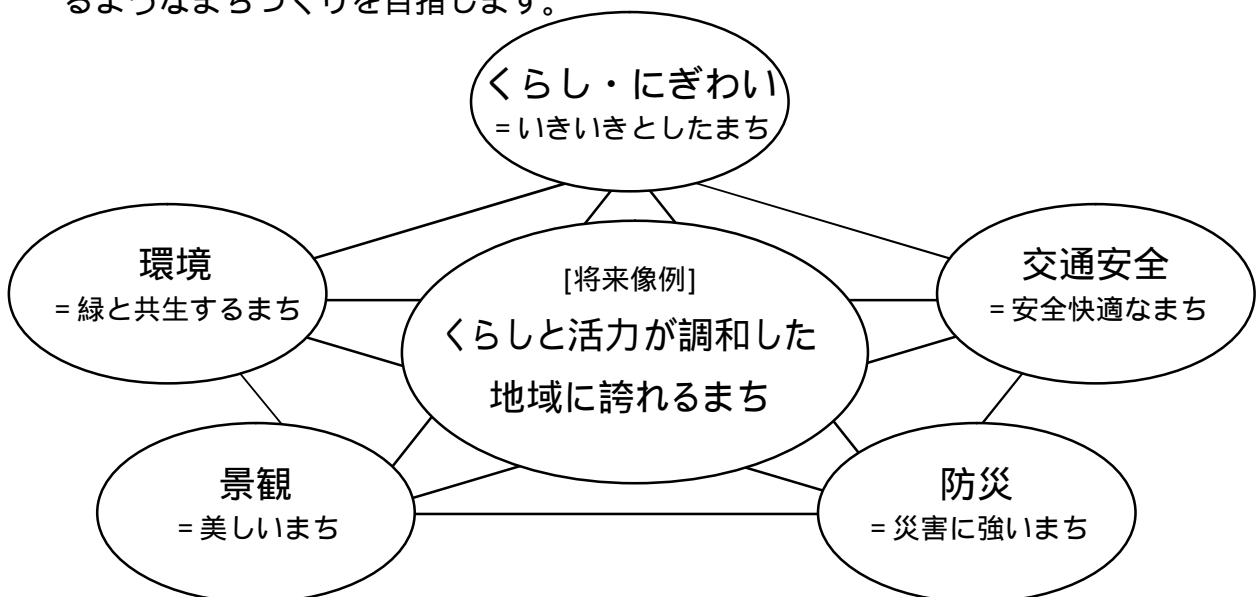
景観 『美しいまち』

- 延焼遮断機能の向上
- 沿道建物の不燃化
- 細街路や行き止まり道路の、まちの更新に合わせた改善

防災 『災害に強いまち』

まちの将来像（事務局案）

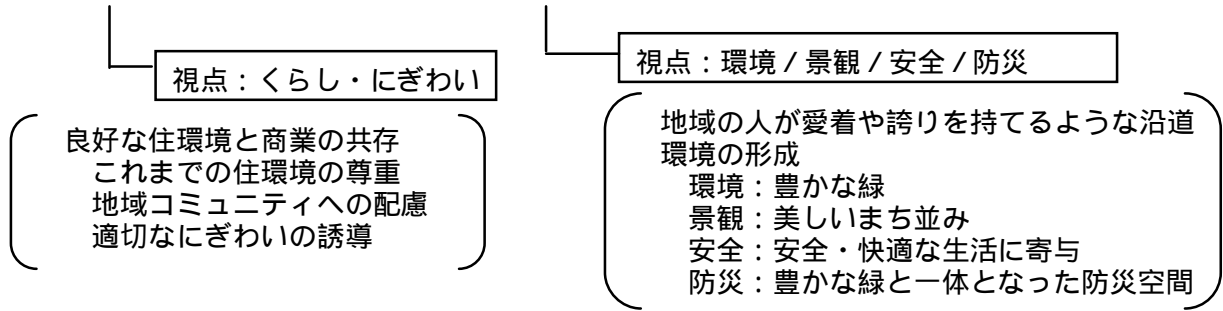
そのため、国 3・2・8 号線沿道まちづくりでは、これまで先人たちの努力によって継承されてきた武蔵野の面影を残す緑豊かな住宅環境を大切にしつつ、くらしとにぎわいが調和した、環境・景観・交通安全・防災のどの面をとっても地域に誇れるようなまちづくりを目指します。



国分寺市沿道まちづくりの将来像について（例示）

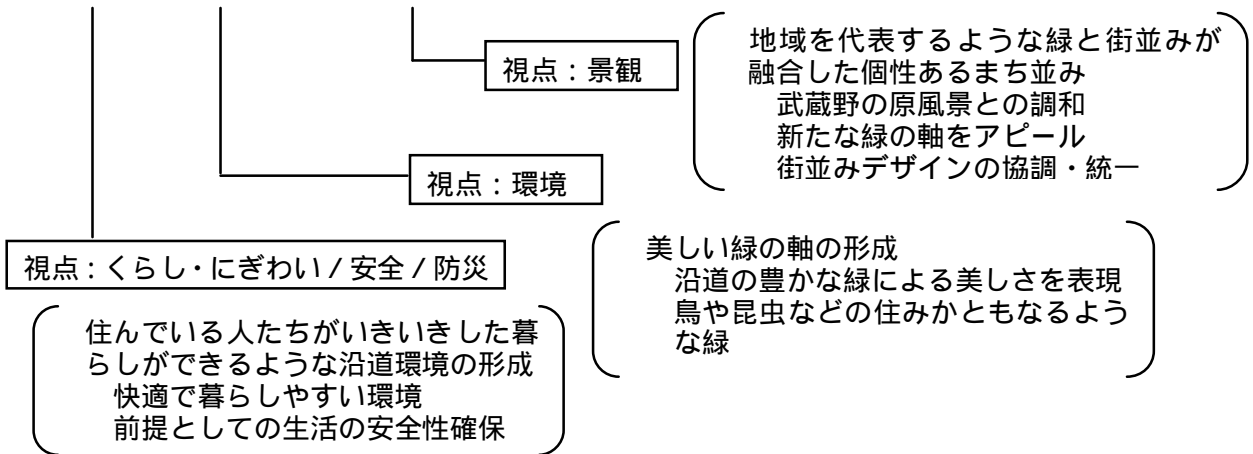
例示 1：暮らし・にぎわいを重視

『くらしと活力が調和した地域に誇れるまち』



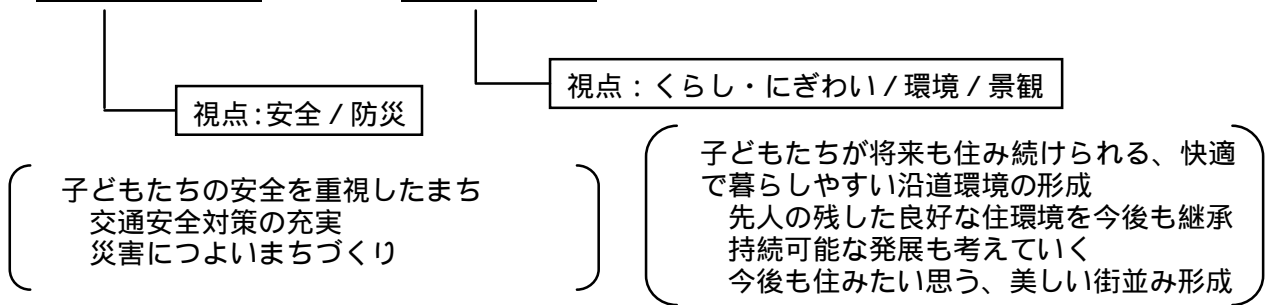
例示 2：環境・景観を重視

『人が輝く 緑が輝く 風格のある美しいまち』



例示 3：安全重視

『子どもたちの笑顔があふれ、住み続けられるまち』



例示 4：バランス重視

『環境と活力が融合した、質の高い暮らしができるまち』

